

# 岩事研広報

No. 200

編集・発行

岩手県公立小中学校

事務職員研究協議会

総務部

平成29年9月30日



五葉山（撮影：綾里小学校 中嶋敬治 さん）

## 主な内容

○第49回全国公立小中学校事務研究大会（京都大会）

○夏季研修講座

○200号特集

・岩事研広報第200号発行に寄せて

・歴代広報担当者から

・未来に向けての展望

○岩手県公立小中高等学校事務職員連絡協議会

他



# 第49回全国公立小中学校事務研究大会京都大会

平成29年8月2日(水)～4日(金) 会場：ロームシアター京都、みやこめっせ

第49回全国研究大会京都大会が「ロームシアター京都」及び「みやこめっせ」を会場に開催されました。京都府での開催は第1回大会が京都の地で開催されて以来2回目となります。岩手県からは40名、全国からは2,600名を超える参加がありました。今回の大会は「地域協働による学校づくりと地域づくり」をテーマに活発な討議と実践交流が行われました。

## 全国大会に参加して

～今回全国大会に参加した方々から～  
《盛岡市立仙北中学校 武田 寿彦 さん》

去る平成29年8月2日(水)から8月4日(金)まで、第49回全国公立小中学校事務研究大会に参加をさせていただきました。期間中は暑い日が続きましたが、比較的風もあり、鴨川を渡る風も(若干)爽やかに感じられました。

本大会は「地域協働による学校づくりと地域づくり」が大会テーマでしたが、京都市は地域協働において、深い歴史的背景と高い先進性を持っていることを全体研究会・分科会を通じて強く感じました。私は今年度6年振りに小中学校へ戻ってきましたが、6年前にも共同実施グループで、今後の学校の役割としてコミュニティスクール等地域にある行政施設としての機能を考えて行かなければならないと話していたことを臆げながら思い出しました。

また、行政説明等で度々話題になりましたが、改正学校教育法が今年4月1日に施行され、事務職員の職務規定が“事務をつかさどる”に改められたことについて、事務職員の地位向上や発信力、存在感等の気運の高まりを感じる一方、何がどう変わるのか具体性の不明瞭さも感じました。

地域協働については、突出した先進地域もあれば、地域性等で思うように進まないところもあり、その実施に事務室・事務職員が大いに期待されているようであるが、これからの学校像が時代のニーズに合わせて変化しているのであれば、従来の職務についても見直しをしていかないと教職員の多忙化は益々厳しくなると思います。教職員の勤務時間の実態把握調査もまとめられ、過労死ライン云々が叫ばれていますが、個人の耐性は一定の時間で推し測れるものではないので、新しいことを始める前に現状を鑑みる必要があると思いますが、みなさんはどのように考えますか。



1日目お弁当！  
おいしゅうおしたく



《野田村立野田小学校 中居 瞳 さん》

第3分科会の研究テーマ「提案型の学校事務職員」に興味を持ち今回の全事研大会に参加させていただきました。研究発表では、学校の果たす役割が複雑化、多様化するなか、これまで以上に積極的な学校経営への参画が必要であることを感じました。また、発表では学校の課題解決に向けて「提案する」という行動について取り上げられましたが、提案するという行動自体が目的ではなく、その先にある子どもたちの学びを豊かにするということが目的であること、そして、そういった学校事務職員の使命を意識しながら仕事を行うことで、仕事の質も大きく変わってくるのだと感じました。分科会の最後には「学校事務職員に期待するもの」と題してパネルディスカッションが行われ、パネリストの皆さまから明日からの頑張りに繋がるような熱いメッセージをいただきました。最終日の記念講演では、清水寺貫主の森清範師を講師に、大変貴重な講話をいただき

(次のページに続く)

ました。その中で、「梵心」という森清範師が考えられた言葉についてのお話が深く心に残りました。どこかで命が繋がっていて、1人として他人はおらず、見えないものを感じ取り感謝の念を抱くこと、そして、見えないものを創造していくという内容で、日々慌ただしい生活の中で忘れずにしていきたい大切なものだと感じました。3日間の研究大会に参加させていただき、全てが大変貴重な経験になりました。今回感じたことをこれからの実践に活かしていけるよう努力したいと思います。

**全体研修会のパネルディスカッションの際、紫波町が例に出されました。(都市部の市町村に比べ8年高齢化が進んでいる!?)**

紫波町の財政はどうする？

単位・百万円	2005年度	2010年度	2015年度 (10年比)	2020年度 (同)
歳入				
町税 (対歳入)	11,658	12,595	14,215	15,155
交付税 (同)	2,779 (23.8%)	2,957 (23.4%)	3,024 (21.2%)	2,969 (26.8%)
交付金 (同)	4,563 (39.1%)	5,175 (41.0%)	4,686 (32.9%)	4,516 (40.5%)
公債 (同)	930 (8.0%)	672 (5.3%)	630 (4.4%)	632 (5.6%)
公債 (同)	479 (4.1%)	300 (2.3%)	708 (4.9%)	702 (6.3%)
歳出				
人件費	11,367	12,150	14,215	15,155
扶助費	2,190	1,927	2,157	2,157
扶助費	757 (6.6%)	1,364 (11.2%)	1,664 (11.7%)	1,387 (16.5%)
公債費	1,764 (15.5%)	1,681 (13.8%)	972 (6.8%)	1,201 (10.3%)
投資的経費	1,277 (11.2%)	1,338 (11.0%)	2,326 (16.3%)	995 (8.9%)
			生涯年齢人口 +6.8%	生涯年齢人口 +12.6%
			後期高齢者 +9.3%	後期高齢者 +16.6%

清水寺貫主 森清範師から御揮毫いただいた「輝(かがやく)」



## 《金ヶ崎町立第一小学校 庵原 史子 さん》

8月3日から3日間、全国公立小中学校事務研究大会に参加させていただきました。全事研大会に参加するのも京都に行くのも初めてだったので、行く前から緊張していました。しかし会場に入ると、約2000人の事務職員、そして教材会社の方で賑わっていて驚きました。この教材社縁日を満喫した後は、緊張を少し緩めて大会に臨むことができたと思います。

今大会では、「地域協働」による学校づくりの中で学校事務職員はどのような役割を担うのか、ということを考えました。全体研究会のパネルディスカッションでは、現在の学校と地域、そして学校事務職員の課題についてや、今後の展望を学ぶことができました。文科省の職員、大学教授、一般の会社の代表取締役といった異なる業種の目線から学校について意見を交わしており、とても興味深かったです。分科会では、兵庫支部の研究発表を聞き、「研修」と「防災」に焦点を当てて作成した研修モデルを実際に体験しました。他県の若手事務職員とベテラン事務職員がいるグループだったので、同じ悩みや不安を共有したり、アドバイス等を頂けたりしたので、とても良い刺激になりました。

大会を通して、学校事務職員も学校や地域が抱えている課題について常にアンテナを張り、情報収集をしたり、解決に向けてどのような方法があるか、どのように連携をとっていくのかを積極的に考えていかなければならないのだなあと感じました。自分ができるところから徐々に始めていきたいと思っています。



**来年度の開催は千葉県！！  
記念すべき50回大会です。**

今回が最後となる夏季研修講座が「プラザおでって」を会場に行われました。参加者は114名でした。

## —講座Ⅰ—

「学校事務の話し方研修」

～『私にとっての学校事務職員』スピーチ体験～

講師：IBCアナウンサー学院 学院長 河辺 邦博 氏

話すときの視線や口の開け方、話の長さなど、どのようにすれば相手に伝わりやすいかを教えていただきました。

また、各支部の代表の方にスピーチをしてもらい、アドバイスをいただきました。



## —講座Ⅱ-A—

「企画書・プレゼン資料作成研修」

～私(学校事務)が作る『学習発表会・文化祭』企画提案～

講師：いわてNPOフォーラム21 事務局 中村 恭香 氏

グループごとに「企画書作成」から模索し、派生する予算案や事業効果まで見込む、高度な内容の研修となりました。単純に各事務職員個人の能力で作るのではなく、グループとしての検討に、熱がこもった経験となりました。

## —講座Ⅱ-B—

「小中学校事務職員初任者等研修」

講師：岩手県事務職員研究協議会

ロジックツリーを使っての問題解決方法について教えていただきました。グループワークで例題を解きながら事務職員同士の交流もでき、日常の悩みや不安も共有できました。



## 参加者からの声

- ・話す力、スピーチ力は事務職員にも求められることだと理解できた。(20代)
- ・悩みを共有できる場があってよかった。他の方の解決策を聞いてよかった。(20代)
- ・事務に話し方って…？と最初は思っていましたが、今の仕事に深く関わっていると実感できました。また、午後の講座では自分の在り方についても学びました。(30代)
- ・事務職員のスキルアップにとってもいい内容だった。(40代)
- ・明日から口の開け方に気をつけてみたいと思います。(40代)
- ・研修することで日頃を見直す機会になり、更に同じ悩みを持つ同士の意見交換や交流ができてよかったです。臨時職員も参加できてありがたかったです。(50代)
- ・3分間スピーチの皆さんの会話も内容にブレがなく、それぞれの思いが伝わってくるいい話で素晴らしかったです。(50代)



# 祝

# 200号記念



## 岩事研広報第 200 号発行に寄せて

岩手県公立小中学校事務職員研究協議会

会長 高橋 広道

このたび、岩手県公立小中学校事務職員研究協議会の広報誌、「岩事研広報」が第200号の発行となりました。岩手県事務研は昭和40年の発足から50年を超えた活動をつづけ、広報も発足当初から発行してきました。50年を超える長きにわたり、発行、編集に携わっていただいた皆様に深く感謝申し上げます。

岩手県事務研は、会則第3条（目的）に定めている、「会員相互の連携とともに、学校事務・事務職員制度の研究に努め・能率の増進・資質及び社会的地位の向上を図り、教育文化の振興に寄与することを目的とする。」を掲げ、第4条に定めている事業「研究・調査」「資質・社会的地位の向上」「会員の連携」「その他目的達成に必要な事業」を行ってきました。研究・研修の推進はもちろんですが、「会員相互の連携」は、一人職の学校事務職員にとって重要なことであり、これからも深めていくことが必要と考えています。

A I（人工知能）の進歩、グローバル化など大きな変化が予想される時代に生きる子どもたちの「学び」を支え、「チーム学校」を具体的に実現していくことを、私たち事務職員に求められています。その変化に対応し、よりよい学校づくりに資する活動を岩手県事務研がこれからも推進していくことが県事務研の目的を満すこととなると考えます。

岩事研広報は、会員への事業の周知や行われた事業の様子のお知らせを中心とした紙面構成としていますが、岩手県教育委員会をはじめとする関係機関、東北各県事務研へも送付し、事務研活動の理解を深めていただくPR活動の中心になっています。また、過去を振り返る重要な資料としても資料センターに保存し活用しています。

時代の変化に伴い、印刷物からデータ配信やホームページからのダウンロードとなっていますが、重要度はますます高まっており、さらに継続・充実していかなければならない事業であると考えます。

会員の皆様の更なるご協力と参加をお願い申し上げます。



## ◇◇◇◇◇歴代広報担当者から◇◇◇◇◇

《北上市立飯豊中学校 高橋 美智子》 (No.171~174 担当)

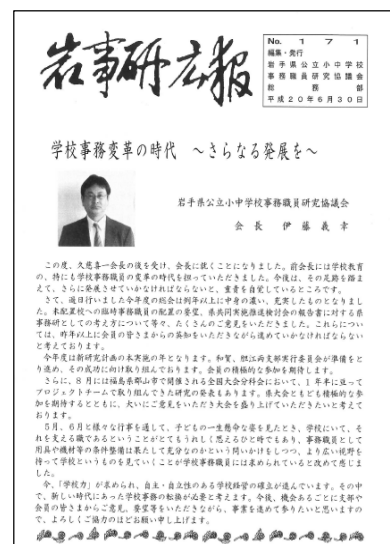
平成20年度、広報を担当していた前任者の異動に伴い、残りの任期1年を担当し、岩事研広報No.171~No.174を発行しました。

会員（会費）も年々減少している中、発行回数4回を、予算内で作成・発送までできる業者を探すのが最初の仕事でした。

この年は、長年続いていた久慈喜一会長から、伊藤義幸会長に代わった年です。8月には、郡山市で行われた「40周年記念全国公立小中学校事務研究大会福島大会」で、学校事務の『ランドデザイン』の策定事業報告があり、第8分科会では、岩手県の取り組みを発表し、おおいに盛り上がったことを覚えて

(次のページに続く)

⇒高橋さんが初めて発行した号



います。

何しろ写真の技術に乏しいため、なかなか使える写真がなく、カットに頼ってしまったことや、入れたい内容をページ内に納めることに苦労しました。ただ、地区の広報担当に2名の方をお願いしての広報作成でしたので、周りのたくさんの支援で完成したと思っています。

県常任になり、広報を担当したことで、たくさんの方と出会うことが出来ましたし、普段では参加できない会議や懇親会等にも出席させていただくこともできました。1年ではありましたが、貴重な経験をさせていただいて、本当に感謝しています。ありがとうございました。



当時の役員メンバー(平成20年度)

**岩事研広報は、高橋さんが担当していた時まで年4回も発行されてました。(今は年3回……汗) 担当になってわかりましたが、この1回分の差はすごく大きい(労力的に)。高橋さんお疲れ様でした。**

《花巻市立若葉小学校 小田嶋 圭子》 (No.181~186 担当)

岩事研広報No.200号発行おめでとうございます。

H23・24年度に常任理事を務めた際に広報作成に携わり、No.181号~186号を担当させていただきました。

この時期の県常任は、H24年度に盛岡で開催された東北事務研究大会の実行委員も兼任することになっていて、何もわからぬまま引き受けてしまい、周りの方々に迷惑ばかりかけていたのを思い出します。

いつも何気なく目にしてきた岩事研広報でしたが、自分が発行する側になってはじめて前任の方々のご苦労がわかりました。(学校の繁忙期と原稿のメ切が重なり、泣きたくなったことも……)

周りの方々に支えられ何とか乗り切った2年間でした。原稿依頼にご協力くださった皆さま、ご指導くださった常任理事の皆さま、その節はありがとうございました。



第42回岩手県公立小中学校事務研究大会

去る10月7日(金)、盛岡市いわて東沢情報交流センター(アール)を会場に、「創進しよろぎ」で、秋田県に在る公立小中学校の事務職員らから、第42回岩手県公立小中学校事務研究大会が開催されました。二日、岩手両支那の実行委員会のもと、県内外より39名の参加者が集い、4つの分科会に分かれ実践交流や活発な意見交換が行われました。

《分科会報告》

第1分科会 第1分組会『経営参画』  
発表：旭江支部

○グループ討議：各グループ10~11名の10グループに分かれ、各支部(共同学協会)での共同実践の状況と交流。学会会費が捻出され共同実践の成果や模範点を発表できた。

○全体協議：自身の共同実践のあり方について、今までの実践を踏まえ、改善すべき課題等を討議した。

・経営参画では、経営参画や教員への参画の増加で多岐を極めていて、緊急参画の教員補給に未熟参画が認められる事例があった。共同実践での支援には限りがあり、弾力的な支援体制の構築の必要性がある。

・グループ討議の成果、実践の発表、パソコンを使ったコンテンツ・アプリ活用による効率化等、事務局のレベルアップにより、経営参画における事務局の役割の重要性が認められた。

・事務局、共同実践、地域連携と連携、共同実践や共同実践委員会を改善したい。

・教育実践としてグループ討議を奨励し、学校の課題に応じた地域に動くことで経営参画に繋がる。(経営参画の推進、教材開発、年度末文書整理、施設安全点検等)

・助言者からは、「学校教員の研修は子ども中心であり、下層参画の増大ではなく(経営参画と関係)、共同実践を推進し、学校を支える唯一の行財政職員としての役割を再認識してほしい」との助言をいただいた。(記者発表委員より)

第1分科会 第2分組会『経営参画』  
発表：和賀支部

学校経営への積極的な参画を目的に、8年度に発足したPDCAサイクルを導入した「事務参画」についての継続研究とその実践内容の発表があった。

参加者からは、「参画の観点の分りやすさ、実務に事務参画の推進の促進を促すことでの経営参画に繋がる」との助言をいただいた。PDCAサイクルを活用して参画を促すことができていて素晴らしい」という意見が出された。

和賀支隊では、参画の進捗が認められた項目(教育活動を支える研究開発)についての対応

↑ 小田嶋さん思い出の号(182号)

小田嶋さんが担当した年は「東日本大震災」があった年。この年の研究大会の全体研究会では、その時の体験を紹介されました。

あれから6年経過し、様々な研修会で災害時の対応について学ぶことが増えました。

もしも、また災害が起き時、正しい対応・判断をしていくために、「あの日」を忘れずにいきたいですね。そして、それを次の世代にも継承していくことも忘れてはいけません。

小田嶋さんお疲れ様でした。

全体研究会 『あのとき何が起きたか』  
～東日本大震災被災校からの報告～

報告者 大船渡市立大船渡北小学校 主任事務室 村上 誠 二 氏  
釜石市立盛岡小学校 事務主任 岡部 理恵子 氏  
大船渡市立赤松小学校 主 事 長川 美代 氏  
司会者 県事務研副会長(奥州市立人徳小学校) 高橋 広 氏



ステージ上に机2つ椅子4つ。厳かな雰囲気の中で全体研究会は始まりました。誰もが思い起こすのは、平成23年3月11日のあの日。出席者のほとんどは、それぞれの職場で体験したはず。報道の多くは被災地の現状を報告していましたが、この場では被災し、その後避難所として機能せざるをえなかった、学校に勤務する学校事務職員の『その日』と『それから』の貴重な体験を紹介していただきました。

具体的なものでは、津波による避難の過程で校舎の浸水により一斉から教員待機業務に追われた経験、あるいは危機管理体制の一段を担い情報収集の状況に努めた様子。

既に報道と実情からも周知の通り「学校」という存在が災害時にどのような役割を担い、またどのように危機管理と共に機能させなければならぬかを考えさせられ、三人の被災地区学校事務職員の体験談は、その多くに同いかけられるように感じられました。

私が勤める学校でも震災が発生したあの日、児童避難の対応・確認などの業務に全職員が奔走しました。しかしながら振り返って検証してみると、その対応は正しかったのか、あるいは訓練などで確認する内容は災害に遭ったものであるかどうか、どの疑問が多くあります。

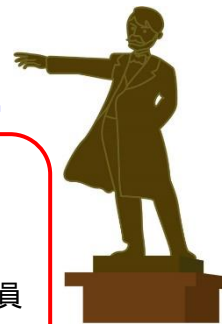
学校の教育行政を担う一員としてこの経験を糧とし、将来の災害に備えて活かせるよう努力しなければなりません。そして、被災地校を結ぶ「記録」の継承を行わなければならない。「復興」が確認された全体研究会だったと思います。(記者発表委員より)

【200号プチ情報】



岩事研広報のこの題字はタイプ印刷で発行するようになった昭和50年6月28日に発行されたものから使われているようです!!!

# 未来に向けての展望



## 【200号から300号に向けて】

若手職員から、広報300号が発行される時（約34年後）にどのような事務職員なっていたいかを聞いてみました。

- ①学校名
- ②氏名
- ③経験年数
- ④将来どんな事務職員になりたいか。

- ①洋野町立宿戸小学校
- ②丹野 愛永
- ③1年目
- ④高校時代にお世話になった事務長さんの様に、笑顔を絶やさず、生徒と保護者と先生方に信頼される事務職員になりたいです。いや、なります！

- ①花巻市立大迫小学校
- ②島津 拓哉
- ③1年目
- ④自分が54歳になっても学校事務を続けているでしょうか。20歳現在の今は辛くてなりません。(笑)でも、みんなから愛される事務職員になりたいです。

- ①大船渡市立吉浜小学校
- ②渡部 ゆきの
- ③1年目
- ④新採用時の気持ちを忘れずに、300号掲載時には、必要とされる存在になること。自信と誇りを持って、仕事ができるようになっていたい。

- ①遠野市立土淵小学校
- ②遠野 晃子
- ③2年目
- ④周りにはいる先輩方が、知識が豊富で、とても頼りになる方たちばかりなので、私も同じように頼りにされる存在になりたいです。

- ①大槌町立大槌学園
- ②杉下 祐亮
- ③3年目
- ④・地域との連携・協働のコミュニティスクールの中核となる職員。  
・野球チームの監督

- ①奥州市立衣里小学校
- ②宮古 健太
- ③3年目
- ④新しいことや変化を嫌わない、柔軟な考え方ができる学校事務職員になればと思います。  
全ての出会いを大切に、高め合い、成長し続けたいです。

## 岩手県公立小中高等学校 事務職員連絡協議会

平成29年9月1日(金)

会場：サンセール盛岡

岩手県公立学校事務長会、岩手県公立高等学校事務職員協会、岩手県立学校事務職員組合、岩手県教職員組合事務職員部と岩手県公立小中学校事務職員研究協議会の五つの団体に、今年度は岩手県公立小中学校事務長会設立準備委員会がオブザーバー参加し開催されました。連絡協議会は1993年から実施されている会議で、それぞれの団体の活動について情報交流し、連携を深め、事務改善等につなげるために開催されています。

今年度は公立小中学校事務職員研究協議会が世話人としての開催で出席者は総勢27名でした。会議では、「チーム学校」や「ジョブローテーション」の状況について意見交換がされたり、県立と小中の事務長について任用形態や発令の違いについて情報交換されたりなど、有意義な交流の場となりました。



### 会議後は懇親会！



### 【お知らせ】

10月6日(金)

岩手県公立小中学校事務研究大会

11月2日(木)

学校マネジメントフォーラム(兵庫)

11月11日(土)～12日(日)

全事研東北ブロック研修会 Part9(山形)

12月1日(金)

学校マネジメントフォーラム(東京)

1月5日(金)

県事務研セミナー

2月23日(金)

全事研セミナー(東京)



### 《編集後記》

今年度初めて常任理事になり広報を担当させていただくことになって、まさかいきなり200号という記念号を作ることになるとは自分の強運に驚きです。(汗)とりあえずなんとか発行できたことに一安心です。

200号発行にあたりいきなり原稿のお願いをしてしまった方々、お忙しいところ対応くださって本当にありがとうございました。

まだ広報を作るのに慣れておらずレイアウトなど、ごちないところが多いと思いますがそこは大目に見ていただければ幸いです。

今後とも岩事研広報のご愛読のほどよろしくお願いいたします。  
(記：菊地)